

『 まいこばなし 』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第87号(2013年8月30日)



非財務情報について

昨年11月に衆議院解散が発表されて以降、いわゆるアベノミクスへの期待から日本の株価は急上昇しました。日経平均株価は野田前首相が党首討論で解散に言及した昨年11月14日から今年の高値である5月22日にかけて、わずか半年間で約80%も上昇しました。このように株価が上昇している局面では、短期的に急騰する銘柄に注目が集まりがちです。今年5月までの上昇相場においてはバイオテクノロジー関連の株価、ソーシャルゲーム関連の株などが大幅に上昇して、連日相場の話題の中心になりました。

しかし、5月半ば以降、株式市場は足踏み状態になりました。5月22日から8月23日の3ヶ月にかけて、日経平均は約13%下落しています。一方で上昇局面で注目を集めた小型株については株価が大幅に下落している銘柄が数多く見られます。例えば時価総額で任天堂を抜いたことで話題になったソーシャルゲームの会社ガンホー・オンライン・エンターテイメントの株価は最高値をつけた5月14日から8月23日にかけて約66%下落し3分の1になってしまいました。

株価上昇局面で短期的な投資成果が注目されるのとは対照的に、株価下落局面では長期投資の大切さが見直されます。長期投資という言葉の解釈は人によって様々で定まったものではありませんが、ここでは「企業が将来にわたって生み出す経済的価値や社会的価値に注目した投資」と定義します。価値を生む企業に注目し、その価値創造プロセスの一端を株主として担うという発想を持って投資をすると、自ずと長期的な見通しに立ち、値動きのみを追いかけて株を買うということがなくなります。株式のオンライン取引が活発になってからはゲーム感覚で短期的な株式売買を楽しむ人も増えていますが、株式投資のもともとの意味合いである「株主になる」という点からは長期投資が本来の投資と考えます。株価が上昇しているときは市場参加者の多くは興奮して本来の投資の意味を忘れがちですが、下落しはじめると冷静になって本来の意味を思い出します。また、ブームに乗らないで長期的観点に基づいて投資をすれば下落局面において大きな痛手を負わずに済む可能性が高いですし、仮に保有銘柄が下落しても慌てずに回復を待つことができます。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『まいこばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第86号 (2013年7月31日)

株式の分析というと業績を中心とした財務情報を集めて計算することをイメージされる方が多いと思います。財務情報を適切に分析することはもちろん重要ですが、長期投資をする際には財務情報だけではなく、定性面も含めた会社全体を理解することがより重要になってきます。もともと財務報告のための書類である有価証券報告書を見ても、財務諸表に関する部分は全体の半分以下であることがほとんどで、残りは沿革、事業内容、従業員、課題、リスク、株主、設備、経営者など、財務以外の情報が記載されています。企業のホームページを見ると財務に関する部分はほんの一部になり、多くは商品・サービス、活動実績、経営方針などが掲載されています。

平成25年3月期 有価証券報告書		頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	11
第2 【事業の状況】	12
1 【業績等の概要】	12
2 【生産、受注及び販売の状況】	15
3 【対処すべき課題】	16
4 【事業等のリスク】	17
5 【経営上の重要な契約等】	22
6 【研究開発活動】	22
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	24
第3 【設備の状況】	54
1 【設備投資等の概要】	54
2 【主要な設備の状況】	55
3 【設備の新設、除却等の計画】	58
第4 【提出会社の状況】	59
1 【株式等の状況】	59
(1) 【株式の総数等】	59
(2) 【新株予約権等の状況】	60
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	64
(4) 【ライツプランの内容】	64
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	64
(6) 【所有者別状況】	65
(7) 【大株主の状況】	65
(8) 【議決権の状況】	66
(9) 【ストックオプション制度の内容】	67
2 【自己株式の取得等の状況】	72
3 【配当政策】	73
4 【株価の推移】	73
5 【役員等の状況】	74
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	79
第5 【経理の状況】	91
1 【連結財務諸表等】	92
2 【財務諸表等】	162
第6 【提出会社の株式事務の概要】	187
第7 【提出会社の参考情報】	188
1 【提出会社の親会社等の情報】	188
2 【その他の参考情報】	188
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	189

こちらはトヨタの平成25年3月期有価証券報告書の目次となりますが、ご覧のとおり財務諸表に関する部分は全体から見れば僅かなことが見てとれます。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

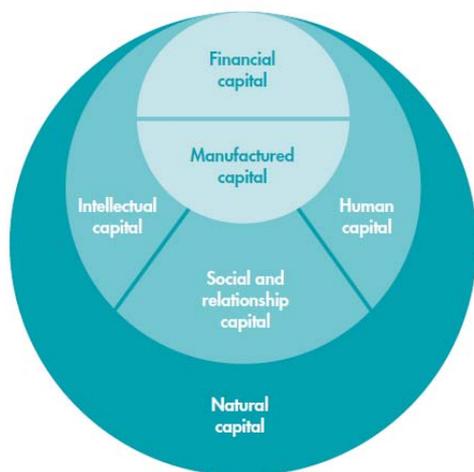
『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第86号 (2013年7月31日)

財務情報以外の情報は「非財務情報」と呼ばれ、昨今徐々に注目度が高まっています。日本証券アナリスト協会が発行している「証券アナリストジャーナル」の2013年8月号でも「非財務情報開示の現状と課題」という特集を組んでいます。非財務情報が注目されてはじめている背景には様々な要因がありますが、最大の要因は財務情報と非財務情報を統合した「統合報告」という新しい企業報告の枠組みの導入が検討されていることにありとされます。統合報告についての検討は各国の会計士協会や企業などにより作られた国際統合報告評議会 (IIRC) が2010年10月から始めており、2013年12月に統合報告のフレームワークの公表が予定されています。IIRCが統合報告を検討しはじめた背景には、投資家の短期志向が金融市場の不安定化を通じて実体経済にマイナスの影響を与えているという問題意識があります。企業の情報開示が財務情報中心であることが投資家の短期志向を促進してきたという反省をふまえて、非財務情報の開示を促進し、それにより金融市場の安定化をはかろうという意図があります。よって、統合報告では長期の時間軸で考えることや、企業が有している様々なリソース (人材、知的財産、製造設備、社会性、自然) を「資本」として捉えることを推奨しています。



IIRC「統合報告フレームワーク コンサルテーション草案」



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第86号(2013年7月31日)

非財務情報へ注目が集まる要因は上記のような制度面の変化に加えて、コンピューター技術の進歩も要因になっている可能性があります。企業の情報開示の電子化や金融情報提供業者の台頭により業績数値の分析のみでは他の投資家と差別化できず投資リターンを得ることが難しくなってきました。一方で企業がインターネットを活用した情報開示を積極化しているため、投資家は業績以外の情報を取得しやすくなっています。

またビッグデータなどと呼ばれる大容量データの分析技術進歩が進んだことで、文章や画像など数値以外の情報(非構造化データ)も分析対象になってきています。ビッグデータは高性能なコンピューターを利用して分析をするため、まだ一部の企業が活用しているのみですが、今後技術が進歩するなかでは多くの人々が気軽に利用できるようなサービスが展開されることも予想されます。そうすると、ますます非財務情報への関心が高まることでしょう。

非財務情報に注目する投資家が増えると財務と株価の関係が単純ではなくなり、株価を長期間にわたって大きく変動させる要因になる可能性があります。そのような環境において株式市場で高いリターンを得るためには、非財務情報を分析するためのボトムアップ調査や、非構造化データの分析などが求められるようになると予想されるため、そのような調査・分析能力を高める必要があると考えています。

※当コラムに掲載された企業は、あくまでも当コラムの内容の理解を深めて頂くためのご参考として掲載したものであり、個別企業を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。